信州発 ▶▶▶ “ずく”出して、世界へのはじめの一歩 イマ・ココから

国際協力

2017 夏号

No.52 2017.7.1 JICA駒ヶ根

ブラジルのアリアンサ移住地に初めてJICAボランティアを派遣！

戦前から戦時中にかけて満州に入植した「満蒙開拓団」の話は有名ですが、大正時代、長野県から遠く離れたブラジル・アリアンサに多くの長野県民が移住したことは、あまり知られていないのではないでしょうか。

大正11年、長野県知事を総裁とする信濃海外協会が設立され、それまでの「出稼ぎ移民」から「永住自作農としての移住」への転換を目指して、南米での移住地建設が提唱されました。大正13年に5,500haの土地が購入され、「アリアンサ（協力・和合）」と命名されると、いよいよ入植が始まり、移住地創設10年後には580家族2,969人（うち長野県出身者は、148家族）に達しました。アリアンサでは、現在も多くの長野県出身者が生活しており平成16年9月現在の長野県人会アリアンサ支部の会員数は、63世帯となっています。

長野県は、アリアンサ入植55周年の記念式典以来、5～10年ごとに訪問団を派遣してきましたが、長野県人会アリアンサ支部から、「長野県出身の青年海外協力隊員にアリアンサ第一日本語学校に来て欲しい」と強く依頼され、この要望に応えるべく、2015年10月にJICAとの間で、日本語教師を第一アリアンサ日本語学校に派遣するための合意書を結びました。

2017年7月、この合意書に基づく初めてのJICAボランティアとして、長野県の現職教員の北沢瑞樹（きたざわみずき）さんが、首都サンパウロから約600km北西に位置するアリアンサに派遣されます。

北沢さんは、2017年3月まで飯田市立松尾小学校に勤務されており、現職の身分を保持したままJICAボランティアに参加できる「現職教員特別参加制度」を活用した「日系社会青年ボランティア」です。北沢さんが赴任する「第一アリアンサ日本語学校」はアリアンサの長野県人会が運営しており、平成28年度現在22人の生徒が学んでいます。北沢さんは、2019年3月までの1年9か月間、主に日系人の子弟を対象に日本語を教える予定です。

ブラジル・サンパウロでの日系社会の式典に参加する阿部知事

北沢瑞樹さんへのインタビュー

2017年6月、JICA横浜で日系社会青年ボランティアの派遣前訓練を受講中の北沢さんにインタビューを実施しました。

1.まずは自己紹介をお願いします。

塩尻市出身で、地元の信州大学教育学部を出て長野県の教員となり、これまで飯田市立松尾小学校で4年間勤務しました。

ポルトガル語クラスで発表をする北沢さん

2.応募のきっかけは?

同僚の先生の中にJICAでの経験がある方やバックパッカーで世界を回った先生がいて、幅広い視野を持ちながら、児童と向かい合っていたので、自分もJICAボランティアに応募したいと考える様になりました。所属先の校長先生にも2年目ぐらいから相談し、理解を得て応募しました。参加する直前の担任の児童たちは、1年入学時から担任をしていたので、1年生、2年生と2年間を終えた区切りで派遣することが出来て良かったです。

3.担任していた児童にはどう伝えましたか?

教員の異動は最後まで伝えないことになっているので、最後の日に「先生は夢を追いかけてブラジルに行きます」と伝えました（笑）。まだ2年生なので、ブラジルがどこにあるのかについてはあまりわかっていなかったようです。また日系人社会について詳しくは伝えませんでしたが、児童からは「ブラジルで結婚しないで、帰ってきてね」と言われました（笑）。

4.ブラジルや派遣される日系人社会についての印象について

ブラジルは、地球の裏側というイメージとあまり治安が良くないという印象を持っていました。また、歴史の授業でも日系人社会について学ぶ機会がなかったので、正直私も日系人社会に対する知識がほとんどありませんでした。

（次頁へ続く）

ポルトガル語クラスの皆さんと先生を囲んで

派遣前訓練を受けたJICA横浜では、日系人を対象とした日系研修を受講している日系人も宿泊しており、彼らとご飯を一緒に食べたり、バスケットをしながら交流して生のポルトガル語の訓練の機会もありました。そのような関わりの中で、日系人に対して、人との付き合いを大切にする人たち、時間を上手く使う人たちだなあという印象を持ちました。

5.派遣先でぜひやってみたいこと

時差の関係があるので出来るかどうかわかりませんが、インターネットなどを通じ、松尾小学校と現地の日本語学校との交流の機会を持てたらと思っています。また、これまで小学校でやっていた行事の中で、特に最近の日本の児童がやることを現地でもやってみたいと思っています。

6.最後に県民の皆様へのメッセージ

恥ずかしながら私も日系青年ボランティアとして派遣されることが決まって、長野県とブラジルや私が派遣されるアリアンサに多くの長野県出身者が移住されていることを知りました。

2年間の派遣後、私は長野県の教員として戻ります。長野県には日系3世や4世の方々が働きに来られ、その子供たちが公立の小学校で学んでいます。ポルトガル語を学び日系人社会に派遣された教員として、帰国後は教員の立場から県内に暮らす日系人の方々への支援にも携われたらと思っています。

また長野県民の方々には、少しでもブラジルやブラジルに移住された長野県出身者のことを知っていただき、自分がそのフィルターになって伝えられればと思っています。

シリーズ 世界から、地域で活躍！

今回は、シニア海外ボランティアとして活躍された方々です。

信州で活躍する元シニア海外ボランティア隊員に聞きました！

上田市在住
志摩 浩一（しま こういち） さん

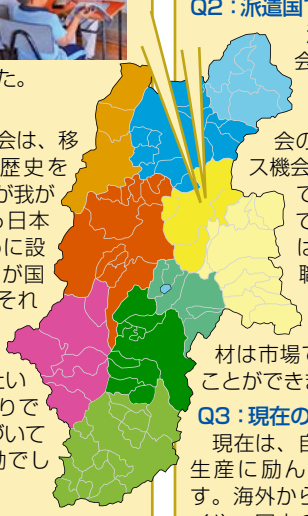
平成25年０次隊
派遣国：パラグアイ
職種：日系日本語学校教師
出身：上田市

Q1：シニア海外ボランティアとなったきっかけは？

今までは自分のやりたい仕事に就き、自分の生活を支えるために仕事をしてきました。定年退職を期に自分の存在が何か、人のために活かせないものかと考えJICAシニアボランティアに応募しました。「念ずれば花開く」と言う言葉がありますが３度目のチャレンジで私は、日系社会シニアボランティア参加という切符を手にすることができました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

パラグアイの日系社会は、移民開始から８０年の歴史を持っています。日系人が我が子たちに母国語である日本語を忘れさせないために設立した「日本語学校」が国内に8ヵ所あります。それぞれの日本語学校を巡回し日本語教育の充実を目指した支援をしてまいりました。日本語のみならず日本人としての良さも子孫に受け継がせたいという日系人の強い熱意を感じさせる学校ばかりでした。パラグアイ国内に日系社会が大きく位置づいており、ボランティアとしてやりがいのある活動でした。



Q3：現在の活動について教えてください。

「長野ビジネス外語カレッジ」は365名の学生が在籍する専門学校です。ここには日本人を含めて世界の25か国からやって来た留学生たちが、語学力とビジネスの専門知識を身につけるために学んでいます。私は学校長として、特に留学生たちには学力の定着と共に「信州人と上田の地を好きになって欲しい。」と言う強い願いを持って学校運営にあたっています。

Q4：シニア海外ボランティアの経験は今どう活きていますか？

とかく私たちは、日本人としての尺度や価値観から日本で生活する外国人を捉えがちです。しかも外国人の姿や生活行動からどうしても負の部分に目を向けがちです。国による文化や生活習慣の違いには必ずそれなりの「訳（理由や根拠）」があることが海外生活を通して理解できました。この視点を本校に在籍する留学生への理解や生活指導にも活かしています。

上田市在住
竹内（たけうち） 茂（しげる） さん

平成20年３次隊
派遣国：ラオス
職種：マーケティング
出身：上田市

Q1：シニア海外ボランティアとなったきっかけは？

長年勤めた会社を退職し、不完全燃焼の毎日を送っていました。これまでの海外勤務の経験を活かし、退職後の生活を、何か輝けるものにしたかった。そんな思いの中、スリランカSV（シニアボランティア）経験がある、尊敬する先輩からの薦めもあって応募しました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

派遣先は、首都ビエンチャンの、ラオス国立商工会議所ハンディクラフト協会でした。活動内容は、協会会員へ海外市場情報提供や、お客さんからの引き合いの紹介です。そしてセミナー、展示会の開催、店舗・工房の巡回により、会員のビジネス機会を増やしたり、競争力をつけたりするための活動でした。生活上では、朝・夕食は自炊、昼食は職場近くの食堂で、仲間と外食でした。食材は市場で問題なく買うことができました。

Q3：現在の活動について教えてください。

現在は、自家用の作物の生産に励んでいる毎日です。海外からのホームステイや、国内の中・高生の農業体験の受け入れを行っています。外国や、国内の様々な人たちと交流することにより、大きな刺激を受け、認知症防止に役立っていると思います。

Q4：シニア海外ボランティアの経験は今どう活きていますか？

帰任直後に、上田市教育委員会社会教育指導員の公募があって、運良く合格することができました。やはり、SVの経験が、大きく評価されたと推測されます。また訓練所で大変苦労した語学の勉強も、海外ホームステイで役立っています。農業体験の生徒へSVの経験や国際協力について話すことも良く有ります。ラオスOB会を毎年開催し、楽しんでいます。

イベント・レポート
Event Report

4/1 4/23 JICAボランティア春募集説明会

3月31日から5月10日の募集期間中、長野県内でも計4回の募集説明会が行われました。第一弾は、4月1日(土)に長野市のTOiGOで、以下3名の帰国隊員によるパネルトーク形式での体験談発表を行いました(上條美香さん、花岡沙代さん、坂田真吾さん)。派遣された国と地域、職種も異なる皆さん、その違いは興味深く、子供時代の様子から、帰国後の活動まで、お話の内容は盛りだくさんでした。

また4月23日(日)には、JICA駒ヶ根にて訓練所恒例の一日体験入隊が行われました。前回から始まったプログラム、「模擬面接」「応募用紙の添削指導」は好評で、長野県内は元より、東京都や神奈川県、埼玉県、愛知県などから多くの方が参加されました。

面接&添削のプログラムでは「自分の欠点が明確になった」「応募の決心がついた」などの感想が聞かれました。他にも語学体験授業では初めて習う言語を積極的に学ぼうとする姿がたくさん見られました。

秋の募集期間(2017年9月29日から11月1日の予定)にも、県内各地で募集説明会を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

4/28 JICAボランティア帰国報告会

JICA駒ヶ根にてJICAボランティア帰国報告会を開催しました。長野県出身者で2017年3月末に帰国された以下の4名が発表し、一般参加者や訓練生を含む50名程の聴講者がありました。任地での苦労から変化のきっかけとなった出来事などを語り、4名のそれぞれの個性が光る発表となりました。

- 矢澤　国明さん　(ネパール、行政サービス、駒ヶ根市役所職員)
- 神津　志野さん　(チ　　リ、コミュニテイ開発)
- 下村　珠美さん　(バヌアツ、小学校教育、現職教員特別参加)
- 小川　ひとみさん(ガ ー ナ、PCインストラクター)

次回の帰国報告会は8月4日(金)18:30～20:30、JICA駒ヶ根にて開催予定です。

以下の派遣国、職種の3名の帰国隊員が、一人20分間ずつ発表します。

■ホンジュラス・小学校教育　■ガボン・PCインストラクター　■ドミニカ共和国・環境教育

皆様のご参加をお待ちしております。

5/28 語学交流会・クロスカルチャーディイベント@駒ヶ根

語学訓練の一環として、各クラス別と各言語別の二部制でネイティブの外国人との語学交流会を行いました。訓練生の派遣先の国の方もいて、任国のネイティブと会話できたことや、また違ったイントネーションに触れることで勉強になった等の声が、多くの訓練生から寄せられました。

語学交流会の翌日は、クロスカルチャーディイベントを開催。

今回は、JICA関西からの研修員(ソロモン・インド・マリ・ブルキナファソ・カメルーン・コンゴ・トーゴ・コートジボワール・メキシコ・ウズベキスタン・ネパール・キルギスの12か国から、合計25名)と市民の皆さま、現在JICA駒ヶ根で訓練を行っているボランティア訓練生とを合わせて総勢約60名で開催しました。

晴天の朝、ロープウェイに乗って千畳敷へ。珍しい山での雪遊びに皆さんとても楽しんでいました。その後は、駒ヶ根キャンプセンターへ行き、BBQによる昼食懇親会。日本伝統のお餅つき体験も実施し、つきたてのお餅や郷土料理の五平餅を食しました。研修員によるギターの演奏もあり、和気あいあいと国際交流を図ることができました。

駒ヶ根市は、季節に応じて様々な表情を持っております。地域の方々と連携・協力して、今後も素晴らしいイベントを行っていこうと思います。

次回は、8月に開催予定です。

JICA駒ヶ根　中小企業海外展開支援

2017年度第1回中小企業海外展開事業で長野市のキャスタリア株式会社の提案が採択されました。
案　件　名:初等･中等教育における初学者向けプログラミング教育に関する基礎調査
対　象　国:ケニア共和国

JICA駒ヶ根では、同社に続き多くの県内企業がJICAの中小企業海外展開支援事業を活用いただける様、今後も県内各地でのセミナーや個別相談を実施してまいります。途上国への進出にご関心のある県内企業の皆様、お気軽にご相談ください。

JICA中小企業海外展開支援事業の県内企業採択実績

会社名	所在地	実施国	実施内容
松山株式会社	上田市	ラオス	代かき機など農業用作業機械の現地生産・販売の可能性調査
株式会社信州セラミックス	大桑村	ベトナム	院内感染予防に向けた医療用抗菌システム普及案件化調査
株式会社ジャパンバイオファーム	伊那市	ザンビア	土壌分析に基づき鶏ふん化成混合肥料を使用する農業技術の普及・実証事業
株式会社細川製作所	安曇野市	ウガンダ	農村部の所得向上を目的としたコメ用石抜き機導入の案件化調査
エフビー介護サービス株式会社	佐久市	タイ	介護施設運営・福祉用具・人材育成事業の有効性、採算性調査
オリオン機械株式会社	須坂市	タイ	自動洗浄機能付き搾乳システムによる品質向上に関する普及・実証事業

草の根技術協力事業

駒ヶ根市民によるネパールでの協力事業が始まります！

ヘルスボランティアへの技術移転

草の根技術協力事業の新しいプロジェクト「ネパール国:ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」(提案自治体:駒ヶ根市･実施団体:ネパール交流市民の会)が始まりました。このプロジェクトは今年度から３年間を予定し、ネパール国･ポカラレクナート市の遠隔地の住民向けに地域保健活動を実施します。プロジェクトマネージャーの北原照美さんは「現場の社会的･経済的弱者を含むすべての妊産婦に対して、安全な分娩や産前産後ケアの機会が提供されることがプロジェクトの目標。事業を通してネパール側だけでなく、駒ヶ根市も活性化する取り組みを続けたい」と意気込みを語りました。

JICA長野デスクの窓から♪

●上田高校SGH事業連携「北陸新幹線サミット」開催!(JICA駒ヶ根後援)

2015年にSGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校となった上田高校。JICAとは様々な事業で連携しています。

JICA北陸 仁田支部長のミニレクチャー

長野県出身のJICAボランティアパネル展

SGH初年度に入学した生徒さんたちが3年生となり、課題研究も形になってきた今、その総括として、6月17日(土)、「北陸新幹線サミット」を開催しました。

長野県からSGH、SSH、SPHの指定校6校、県外の北陸新幹線沿線のSGH校中心に6校、127名が信州上田に集い、学校間交流を深めました。

分科会Ⅲ
グローバル課題から解決策を提言（日本語）

全体会としてJICA北陸の仁田支部長、佐久大学の堀内学長のミニレクチャーに続き、4つの分科会に分かれて、生徒さんの課題研究の発表とディスカッション。長野デスクも講師として参加させていただきましたが、高校生とは思えない堂々とした発表と意見交換に圧倒されました。

たった1日でしたが、学校を超えた学びの場での素晴らしい時間となりました。

どうもありがとうございました！

大盛況に終わりました。お疲れ様でした。

シニア海外ボランティア 現地レポート from スリランカ

小山（こやま） 秀樹（ひでき）さん
平成27年度2次隊
職種：野球
阿智村出身

２６年間勤めた長野県公立高校教諭を、２０１５年３月に５２歳で早期退職して、２０１５年10月1日に着任しました。

着任してすぐJICAスリランカ事務所に行きドアを開けると、突然、拍手と紙ふぶきが。そして何と「通算１０００人目」のカードが渡され、責任と重みを感じボランティア活動がスタートしました。

スリランカ野球ナショナルチームのコーチとして野球の指導中、日本とは勝手が違うので5つのルールをもうけました。

1. Be ready　2. Shout　3. Run　4. Cover　5. Never Give Up

です。日本で長年高校野球の指導者をしていましたが、改めてこれら5つのことの大切さを再確認させられました。また、グラウンドがゴミや石だらけなのでそれを拾ってからの練習が続きました。久しぶりに行ったカレッジで、練習前に選手たちが自ら行っている様子を見たときは、とても感動して嬉しくなりました。クリケットが主流で野球はまだまだマイナーなスポーツですが野球人口は徐々に増え、競技レベルも確実にアップしていると思います。

他にも いろいろな地域のカレッジや社会人の野球チームに指導に行きました。活動自体うまくいかないことが多いですが、子どもたちの笑顔に救われ、活動しています。2月末にパキスタンで行われた第13回西アジア大会で、初のスリランカ人監督のもとで、初優勝を収めことができ、関係各位に大変お世話になり感謝しています。

第13回西アジア大会優勝

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動 お疲れ様でした!!

平成26年度2次隊
小川（おがわ） ひとみ さん
（松本市）
●派遣国：ガーナ
●職　種：PCインストラクター

ガーナの職業訓練校にて、全校生徒を対象にパソコンの基礎を教えてきました。ガーナでは停電の頻度がとても高く、なかなか実践的なパソコンの知識を教えることができません。そこで、電気がなくても実践的な内容を勉強できるように、数々の教材開発を行いました。たとえば「アイコンかるた」。MS Officeのアイコンを1枚ずつカードにし、かるたのようにアイコンの名前を呼んでその絵札をとる、というものです。これは勉強嫌いなガーナ人の生徒たちにも大好評でした。

アイコンかるたを使った授業

さらにITの知識を競う学校対抗のクイズ大会を開催しました。これは、学習意欲の向上を図って企画をしたものです。競争好きで負けず嫌いなガーナ人は、生徒・教員共々大会に向けて入念に準備をしていました。目論みは成功し、当日は大盛況でした。

クイズ大会当日は５校から 200 人が集結↓

また、資金難に窮する配属先のために同僚と協力し合って、開発した教材の販売や外部者向けの講座を開講して、資金調達を試みたこともありました。

ガーナで生活をした2年6ヶ月の間、たくさんの素晴らしいことを学びました。万人を愛するガーナ人と接して行くなかで、人類はひとつだと思わずにはいられませんでした。とても大切なことを教えてくれたガーナ。彼らと過ごした2年半は、かけがえのない一生の宝物となりました。

折り紙は授業前のアイスブレイクの定番↑

新スタッフ

金城睦子（きんじょう むつこ）

16年ぶりに駒ヶ根に帰ってきました。
3回目の訓練所勤務は、時代とともに訓練の内容も変わってきており、以前より凝縮された訓練になっているように感じました。
でも変わらないのは駒ヶ根の街並みと駒ヶ根の人々の人情と美しい山並みだに!!訓練所では語学の支援を行う業務を担当しています。

中津雅昭（なかつ まさあき）

本年4月より駒ヶ根訓練所に赴任しました。JICAではパキスタン・アフガニスタン支援事業、中小企業によるインド等へのビジネス展開を支援する事業に携わってきました。訓練所では訓練全般の総括業務を担当しています。

Information

JICA駒ヶ根 インフォメーション

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ JICAボランティア事業の理念と目標
内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動
7月10日(月)　15:10～16:00
定員：10名　講師：青年海外協力隊事務局　局長

▶ JICA事業概要
内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要
7月24日(月)　15:10～16:00
定員：10名　講師：青年海外協力隊事務局　職員

▶ 映画「クロスロード」上映会
内容：カメラマン助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田（黒木啓司）は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込むが…
8月7日(月)　19:10～21:00
定員：20名

▶ 国際関係と日本の国際協力
内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する。
8月9日(水)　15:10～17:00
定員：10名　講師：廣野良吉氏（成蹊大学　名誉教授）

▶ 地球のステージ(コンサート)
内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
8月16日(月)　19:10～21:00
定員：50名　講師：桑山紀彦氏(地球のステージ事務局)

▶ 異文化適応概論
内容：文化とは何か、異文化理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていくにあたっての心構えを説く。
8月17日(木)　15:10～17:00
定員：10名　講師：関谷雄一氏(東京大学大学院　総合文化研究科　准教授)

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。
ホームページ　https://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

2017年度 1次隊(5名) 新ボランティア 行ってきます!!

青年海外協力隊

遠山 宏樹（とおやま ひろき）さん（長野市）
派遣国：ガーナ
職　種：青少年活動

ガーナの地方の小・中学校でPCの基礎的な操作方法についての授業を行う予定です。「受け入れる心」を大切に、任地の子どもや教員と心を通わせ、二年後、日本や社会に還元したいと考えております。

市川 志野（いちかわ しの）さん（宇治市）
派遣国：ザンビア
職　種：理科教育

ザンビアの学校で子どもたちに理科教育を行います。現地の先生方と協力し、魅力的な授業作りをしたいです。また、栄村の子どもたちにザンビアの様子を伝え、日本とザンビアの架け橋になれればと思います。

北沢 瑞樹（きたざわ みずき）さん（塩尻市）
派遣国：ブラジル
職　種：日系日本語学校教師

教師になって4年。自分の狭い価値観だけで子どもに接していることに気づき、海外に出て自分の価値観を変え、色々な角度から子どもたちのことを理解できるようになりたいと思い応募しました。成長して帰ってきます!

長田 真弥（おさだ しんや）さん（長野市）
派遣国：パラグアイ
職　種：理学療法士

パラグアイの市営リハビリ施設へ理学療法士として派遣されます。現地の人の暮らしに合うような形で、身体的なことから生活面などにも携わっていきたいと思います。

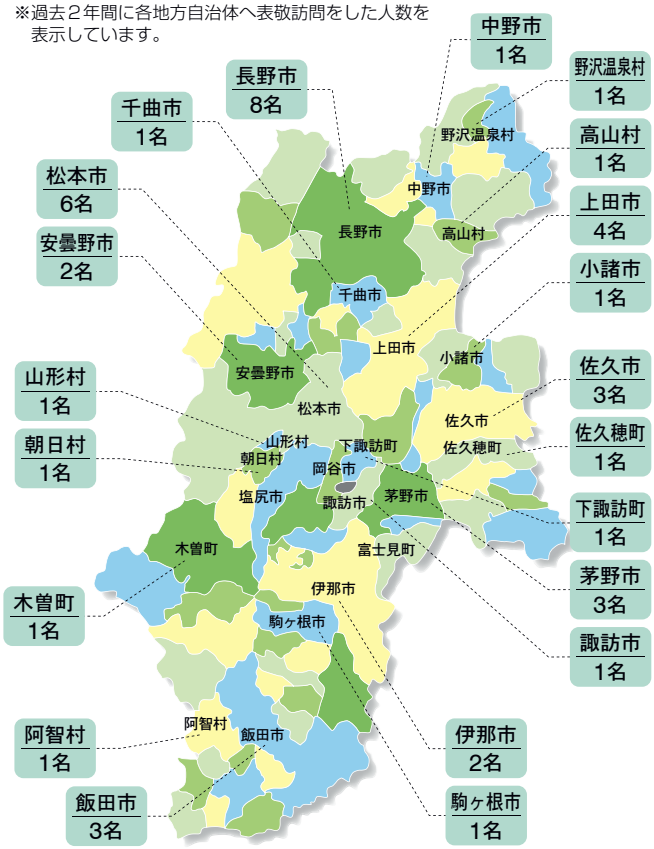
城谷 啓美（しろたに ひろみ）さん（千曲市）
派遣国：アルゼンチン
職　種：日系日本語学校教師

日本の裏側にあるもう一つの日本（日系社会）で日本文化の紹介や日本語教育の支援を行います。現地の人々と協働しながら共に成長し、充実した二年間を送りたいと思います。

派遣中JICAボランティア

（平成29年1月31日更新）

※過去2年間に各地方自治体へ表敬訪問をした人数を表示しています。



長野県出身者　JICAボランティア派遣実績

平成29年4月30日現在

①青年海外協力隊員
派遣中　38名
累　計985名

②シニア海外ボランティア
派遣中　2名
累　計　79名

③日系社会青年ボランティア
派遣中　3名
累　計　26名

④日系社会シニアボランティア
派遣中　0名
累　計　6名

発行　独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151㈹ FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
https://www.facebook.com/jicakomagane

JICA駒ヶ根 メールマガジン
配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp までメールでご連絡ください!
JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。

古紙パルプ配合率100%の再生マットコート紙を使用しています。 R100